2. 地形分類図の見方・考え方

地形と地形分類図

我々の生活している土地はさまざまな生い立ちを持った地形から成り立っています．地形分類図はそのようなさまざまな生い立ちを持つ地形を区分して地図上で色分けして表示した地図です．

地形分類図にはさまざまな種類のものがあり，公的な機関で刊行されているものでも国土地理院の治水地形分類図，土地条件図，火山土地条件図，国土交通省の土地履歴調査（地形分類図）など各種あります．これらの地形分類図はそれぞれの目的に応じて地形の区分を行っているので，地形分類図毎に地形の名称が違っていたり地形の区分基準が違っていたりしますが，基本的には余り大きな違いは無いといって良いでしょう．

学校教育では日本の国土の地形は大きく山地・丘陵，盆地，平野などからなるというように学びます．まずこれを基本として頭に入れて下さい．その上で，それぞれの地形はさらに細かい地形の組み合わせから成り立っています．たとえば平野についてみると，平野は河川の作用によって形成された沖積平野，主として海の作用によって形成された海岸平野，相対的に高く比較的平坦な地形である台地などに分けることができ，これらの地形はさらに各種の地形に細分されます．たとえば沖積平野の地形はさらに扇状地，氾濫原，三角州などに区分され，氾濫原の地形は自然堤防，後背湿地，旧河道などに分けることができます．

「1．あなたの住む場所の地形分類図を見る方法」では国土地理院の治水地形分類図と土地条件図の両方を統合した地形分類図（ベクトルタイル提供実験）と国土交通省の「重ねるハザードマップ」を見るリンクが示されています．また，「重ねるハザードマップ」では治水地形分類図や土地条件図，土地分類調査の地形分類図などが選べるようになっています．また，国土地理院の地理院地図を検索して開いてみると各種の地形分類図を見ることができ，治水地形分類図や土地条件図などのほか火山土地条件図や沿岸海域土地条件図などを見ることができます．

実際の地形分類図を見てみよう

それでは「1．あなたの住む場所の地形分類図を見る方法」の地理院地図のリンクを開いて地形分類図を見てみましょう．リンクをクリックすると日本列島の地図が現れます．主として臨海部などに見られる青い部分が地形分類図（治水地形分類図と土地条件図）の表示される地域です．

地図をズームインすると地形分類図が表示されます．地形分類図は色分けされていて，多くの地形分類図では山地・丘陵が茶色系統の色，台地がオレンジ系統の色，低地が青や緑，黄色などの色で塗り分けられています．もちろんこのような色分けとは異なる塗り分けの地形分類図もありますが，一般に平野部では低い土地が水色や緑，青，すこし高い土地が黄色系統で塗られています．黄色に塗られている微高地には自然堤防や砂丘，砂州など，水色や緑，青に塗られている土地は後背湿地，氾濫原低地，湿地，旧河道などに区分される低い水はけの悪い土地の場合が多いです．

それでは実際に地図を見てみましょう．

図 1 は濃尾平野中央部の木曽川，長良川，揖斐川の流れる氾濫原の地形分類図です．この図のどこかをクリックするとポップアップで地形の名称と説明，自然災害リスクが現れます．さまざまな色や形で見られる地形をクリックしてその名称や特徴を頭に入れておくとよいと思います．図 1 では黄緑色の部分をクリックしてみた結果，「氾濫平野」という名称が示され，土地の成り立ちと水害のリスクが書かれています．

なお，学校教育ではこのような場所を後背湿地とよんでいますが，地形分類図によってはこの治水地形分類図のように氾濫平野とよんだり，氾濫原低地，後背低地等とよんでいるものもあり，統一がとれていません．用語は不統一ですが，土地の性質は同じなので土地の成り立ちや自然災害リスクをしっかりと頭に入れることが重要で名称の違いにはあまりこだわらない方が良いと思います．

図 1 濃尾平野中央部の地形分類図

念のためにすこし上流域の地形分類図も見てみましょう．図 2 は荒川上流の埼玉県寄居町付近の地形分類図です．平野部とは違って薄茶色の山地・丘陵と川の両岸に広がるオレンジ色の台地・段丘が見られます．また，山地や台地を刻む小さな谷があり，その谷底には黄緑色の谷底平野が樹枝状にのびています．この黄緑色の部分をクリックすると平野部と同じく「氾濫平野」という地形の説明がポップアップしますが，この治水地形分類図以外では谷底平野という地形名で区分される場合もあり，筆者は平野部のものと区別するため谷底平野という言葉を使っています．

図 2 山地，台地・段丘を示す地形分類図

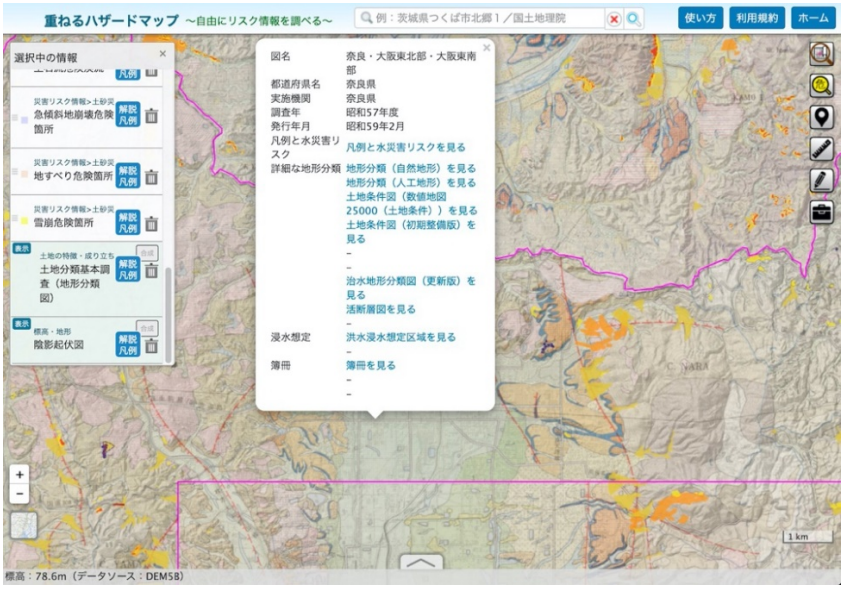

図 3 重ねるハザードマップにおけるポップアップメニュー

一方，重ねるハザードマップの場合は重ねる地図に土地分類基本調査の地形分類図を選び，地点をクリックすると図 3 のように地形分類図の説明等がポップアップし，その中に「凡例と水災害リスク」という項目が表示されています．これをクリックすると地形区分の凡例のほか，地形と水災害（洪水・土砂災害）のリスクが表で示されますので，こちらも参考にして下さい．

なお，さらに詳しい地形の特徴や自然災害との関係などを知るには専門の図書を参考にすることもできます．次に示ものもそれらの例ですので参考にして下さい．

文献

鈴木隆介(1997～2004)『建設技術者のための地形図読図入門 1～4』，古今書院.

海津正倫(2019)『沖積低地 -土地条件と自然災害リスク-』．古今書院，152 pp.

海津正倫（奈良大学特命教授・名古屋大学名誉教授）